

令和4(2022)年度 学校安全総合支援事業

危険を予測し、回避する能力を身に付け、自分を守る
行動ができる児童生徒の育成を目指して



モデル地域 塩谷町

栃木県教育委員会



事業概要

本県は、全国と同様に、児童生徒等を対象とした声かけ、つきまとい等の事案が後を絶たない状況が続いています。また、集団での登下校の際も、一人区間が多くなってしまう地域や死角の多い地域があるほか、見守りボランティアの高齢化や新たな担い手の不足等、防犯の観点において地域や学校の抱える課題があります。さらに、登下校中や下校後の場面等で自動車との接触事故等も発生しており、交通安全の視点においても児童生徒の安全を確保することは、大きな課題となっています。

そこで今年度は、同様の課題を有する塩谷町をモデル地域として、不審者対策や交通事故防止に対する教育プログラムの開発・活用を通して、危険を予測し、回避する能力を身に付け、自分を守る行動ができる児童生徒の育成や通学路の合同点検の徹底及び環境の整備・改善、見守りの活性化等について取り組んできました。

事業を進めるにあたっては、中核的に取り組む学校(以下、拠点校)と拠点校をサポートしながら実践の効果を自校化することに努める学校(以下、協力校)において、様々な工夫をしながら研究の充実を図りました。

事業体制

生活安全(防犯)、交通安全

推進委員会

有識者

関係機関等
(県防犯協会、県警、くらし安全安心課)

↓ 助言、連携・協力

↓ 助言、連携・協力

栃木県教育委員会

指導・助言

成果報告

モデル地域: 塩谷町

防犯教育

[拠点校] 塩谷町立塩谷中学校

塩谷町立船生小学校

塩谷町立玉生小学校

塩谷町立大宮小学校

↑ 助言、連携・協力

有識者、学校安全アドバイザー
関係機関(PTA、消防署、警察署、自治会、警備会社)
教育事務所、学校安全課

実践委員会

《成果の普及》
・成果発表
・リーフレット配布

小・中学校
及び
義務教育学校

高等学校

特別支援学校

国私立学校

事業の流れ

7月

第1回推進委員会

8月

第1回実践委員会

○先進地視察

○自転車教室(船生小)

○通学路合同点検

○安全マップづくり(船生小)

9月

10月

第2回推進委員会

○安全マップづくり(大宮小)

○安全マップづくり(塩谷中)

11月

第2回実践委員会

○安全マップづくり(玉生小)

○公開避難訓練(塩谷中)

○防犯訓練(玉生小)

12月

第3回推進委員会

○心肺蘇生講習会(塩谷中)

第3回実践委員会

1月

○防犯訓練(船生小)

栃木県教育研究発表大会

2月

全国成果発表会



第1回実践委員会



通学路合同点検



安全マップづくり



公開避難訓練



心肺蘇生講習会

写真

栃木県教育研究発表大会

拠点校：塩谷町立塩谷中学校の取組

【取組のねらい】

本校は、町総合公園と隣接をしており、民家が少ないところに立地しているため、基本的に人目が少なく、不審者等の情報も報告されている。そこで、不審者対応避難訓練の計画・実施、心肺蘇生講習会、安全マップの作成等において安全教育を充実させることで、生徒に確かな知識、状況に応じた適切な判断、自分を守る行動など発達の段階に応じた危険予測、回避能力を身に付けさせることができると考えた。

【取組内容】

◇ 校内体制の整備

- 生徒指導部を中心とした防犯活動の実施
- 中学校区内の小学校と連携し、安全マップ作成における情報共有や危機管理マニュアルの見直しについての情報交換等の実施
- 防犯カメラの設置

◇ 年間指導計画(学校安全計画)の見直し

- 不審者対応避難訓練の効果的な実施方法と研修の検討
- 学校安全計画の見直し

◇ 学習指導の改善

- 不審者対応避難訓練及び事前・事後学習の検討
- アンケートの実施

◇ 公開避難訓練(不審者対応)

- ・期日: 令和4年11月21日(月)
- ・目的: 非常時における危険回避の基本的な行動の仕方を理解し、安全に避難できる。
- ・内容: ①安全な避難の仕方

事前指導で非常時における危険回避の基本的な行動の仕方の確認を行った。

②不審者への対応の仕方

教室待機の継続の場合や避難場所に避難する場合の想定を確認した。

不審者が退去しない場合についての教職員の役割分担等の確認を行った。

③警察等への連絡体制の確認

教職員の連絡担当者・連絡手段や内容について警察から助言を受けながら確認を行った。

④振り返り

活動後、全体に警察署員から総合評価を受けた。また、各学級で非常時の避難場所や経路、避難訓練の様子振り返りを行った。



生徒の振り返り

- ・不審者が来たときの対応、避難方法が確認できた。
- ・隠語(緊急集会＝不審者、第1会場＝駐車場、・・・など)が理解できた。
- ・不審者役の警察の方がとてもリアルで、とても貴重な体験ができた。

教職員の主な意見

- ・基本的な対応について確認ができ、職員の危機意識の向上につながった。
- ・万が一のことを考え、今後も1年に1回は実施した方がよいと思った。
- ・今回の訓練では防犯カメラで不審者を発見できたので、侵入場所が分かり早期に初期対応を行うことができた。防犯カメラの設置は、侵入の抑止力にもなると思った。

◇ 心肺蘇生講習会

- ・期日: 令和4年12月19日(月)・20日(火)・21日(水)
- ・目的: 大切な人や家族の命を守る心肺蘇生やAEDの使い方、けがの手当など、応急処置について知識や技能を習得する。
- ・内容: ①応急手当の目的・必要性等について学ぶ。
②心肺蘇生法について学び、心肺蘇生法実技演習を行う。
③AEDの使用法について学び、AEDを含めた心肺蘇生法の実技演習を行う。
④異物除去法や止血法について学ぶ。



生徒の振り返り

- ・講習前ではあやふやだった知識等が今回の講習で再確認できた。
- ・胸骨圧迫の仕方とAEDの使用方法が分かった。私は祖父母と一緒に住んでいるので、もしもの時は対応しようと思った。
- ・命の大切さをしっかりと学べた。

◇ 安全マップの作成

- ・期間: 令和4年10月24日(月)～12月2日(金)
- ・目的: 生徒が犯罪に遭わないように、身を守る知識や危険な場所を見極める力を養う。
- ・内容: 既存の安全マップのアップデートを行った。

まず、安全マップについて生徒に周知し、各クラスでマップ情報の収集作業を行った。集まった情報をもとにフィールドワークを行い、現場の状況を確認し、安全マップを作成した。生徒は防犯上危険な(入りやすく、見えにくい)場所や自分たちができること等を理解し、危険予測・回避能力を高めることができた。また、身近な危険の共通認識ができ、生徒同士や家族・地域の人たちとのコミュニケーションの場にもなった。教職員にとっては、地域の危険箇所の状況の把握や生徒の危険回避能力を育成する必要性の再確認ができ、危機意識の向上につながった。今後も随時アップデートを行っていきたい。



協力校：塩谷町立船生小学校・玉生小学校・大宮小学校の取組

実践委員会に参加した中核教員が、それぞれの所属校において、委員会で話し合われた内容を基に安全マップづくりや防犯訓練等を実施した。

塩谷町立玉生小学校

◇ 防犯訓練

不審者が侵入したとき、どんな放送があるか、放送を聞いてどう避難するかを児童に理解させ、訓練を行った。塩谷中学校で実施された公開避難訓練に係が参加し、その際に出た反省も生かし、第1遭遇者はできるだけ時間を稼ぐようにすること、通報は教頭が携帯で行い現場での様子を伝えられるようにすること等を確認した。

2階階段付近に不審者が侵入し、第1遭遇者が声をかけ、危険と判断し職員室に知らせ、110番通報、不審者侵入を知らせる放送をし、現場にさすまた等をもって複数の職員が駆けつけた。その間に児童は体育館に静かに避難した。

実施後の児童の感想にも、真剣に訓練に参加し、訓練の意義を理解できたことが受け取れたことが書かれていた。

現場に駆けつけた職員については、声を出し連携を取る必要があるとの反省が出た。



塩谷町立大宮小学校

◇ 学校安全アドバイザーの助言を受けて実施した安全マップづくり

お知らせ委員会(児童会)の活動として安全マップづくりを行った。学校区の防犯上危険な場所を調べて安全マップを作成し、学校内に掲示することで、全児童に防犯に対する意識を高めていくことを目的として行った。

委員会では、学校安全アドバイザーの助言を受けながら、自分たちの住んでいる地域の犯罪被害に遭いやすい場所をタブレットを使って調べた。子供たちは、犯罪に巻き込まれやすい(「入りやすい」「見えにくい」)場所を熱心に調べていた。児童から、「普段通っている道にも「入りやすい・見えにくい」場所が多いことが分かった。」「入りやすくて見えにくい危険な場所をみんなに知らせて、安全に生活してほしい。」などの意見が聞かれた。安全マップ作成の活動をとおして、犯罪被害防止能力が高まってきている。

本校では、「こども110番の家」を巡る「知ーるラリー」という伝統行事がある。自宅付近の「こども110番の家」を確認しシールを貼るというもので、この行事により、本校児童の「こども110番の家」の認知率は高い。



塩谷町立船生小学校

◇ 授業参観時に親子で実施した安全マップづくり

自分の住む地域の安全性を確認し、自らを守る力の育成を目指して安全マップづくりの授業を実施した。保護者も一緒になって行い、子供たちに改めて地域の様子を伝えたり、子供たちの質問に答えたりする姿があり、自宅周辺の現状を共通理解しながらマップづくりが進められた。

多くの家庭では、この授業後に親子で危険箇所の現場を確認しており、子供たちのみならず保護者の安全に対する意識の向上も見られた。



児童の振り返り

- ・家の周りにはいろんな危険箇所があることが分かったので、これからも気をつけたいです。
- ・私だけじゃ分からない危険なところをお母さんとまとめられてよかったです。
- ・こども110番の家に行けば助けてくれることが分かりました。

教職員の主な意見

- ・危険な場所「入りやすくて、見えにくい」を理解させることができた。
- ・保護者と一緒に作成したことにより、保護者の防犯に対する意識を高めることができた。
- ・こども110番の家の場所を知らない児童が多かった。

交通安全教室

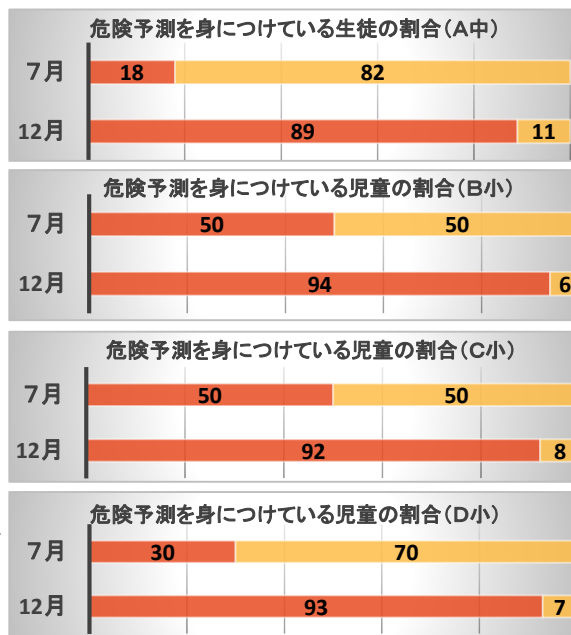
町内各小中学校では、危険を事前に予測し、安全に自転車に乗ったり、通学路を安全に歩行したりすることができるよう、交通安全教室を開催した。交通安全教室では、自分たちの町の道路ではどのような危険があるのかを考えたり、ヘルメットの正しい着用の仕方を学んだりし、安全な乗車や歩行の仕方を理解した。また、普段は意識することが少なかった交通ルールを理解するよい機会にもなった。



成果と今後の取組

【成果】

- 従前から行ってきた様々な訓練等を整理・充実することを通して、安全な生活を実現するために必要な知識や技能を習得させたことにより、危険を予測し、回避する力を身に付けた児童生徒が増加した。
- 避難訓練の実施により、役割分担やさすまたの使用、少人数での対応、女性教員での対応等、様々な課題が浮き彫りになり、解決策を検討するよい機会となった。また、危機管理マニュアルの見直し、そして、教職員の危機意識の向上につながった。
- 安全マップ作りでは、安全の状況を適切に判断し、危険を回避する方法等を考える活動を通して、今までは何気なく通っていた通学路の危険な場所に気づき、安全を意識し行動できるようになった。また、「こども110番の家」についても理解を深めたが、認知度が低いという課題も明らかになり住民との交流の大切さを再認識した。
- 授業参観で保護者と一緒に安全マップを作成したことにより、より充実した内容になったとともに、保護者の安全に対する意識の向上を図ることもできた。
- 防犯カメラを設置したことにより、不審者への早期対応や侵入の抑止力の一助とすることができた。塩谷町では、協力校3校にも防犯カメラを設置することが決定した。



【今後の取組】

《避難訓練》

児童生徒の危険を予測・回避する能力を育成するため、実際に起こり得ることを想定した、実践的な避難訓練を行っていききたい。様々な危機に対する避難訓練を実施する必要があるが、回数も限られていることから、優先順位等を検討しながら継続して実施し、習得した知識を活用して状況に応じて自らが適切に判断し避難を行うような訓練も設定していききたい。その際には、関係機関との連携を図り、つながりを保ちつつ実施していく。

《安全マップづくり》

安全マップについては、学校だけでなく、家庭や地域と連携を図りながら作成していききたい。地域の防災等の基本情報を組み込んだり、広報誌に掲載して住民の意見を取り入れたりすることなどを考えている。また、「こども110番の家」の認知度を高めていけるよう、地域住民との交流を図る活動を大切に、実施していききたい。

《家庭・地域との連携》

家庭や地域との連携については、学校と家庭、地域が直接対話ができるよう地域学校安全委員会やコミュニティ・スクールなどの仕組みを活用して、意見交換の場を設けるとともに、普段からの関係づくりを大切にしていきたい。

◆ 栃木県教育研究発表大会 ◆

令和5(2023)年1月27日(金)、栃木県教育研究発表大会子どもの安全・安心部会において、本事業の取組に関する発表を行いました。モデル地区の塩谷町から、実践内容の紹介や実践後の児童生徒の変容などについて報告しました。今後も本事業で得た成果等について、県内に広く周知し、学校安全の充実に努めていきます。

◆ 推進委員会 ◆

放送大学栃木学習センター所長
宇都宮大学大学院教育学研究科准教授
宇都宮大学地域デザイン科学部准教授
栃木県防犯協会女性部長
栃木県警生活安全部人身安全少年課課長補佐
くらし安全安心課生活・交通安全担当副主幹
塩谷町教育委員会主幹兼学校教育担当リーダー
塩谷南那須教育事務所指導主事

伊東 明彦(委員長)
久保 元芳
近藤 伸也
川嶋 和子
別井 則崇
原戸 康維
藤井 正典
角田 光俊

※敬称略

